

23年度決算 145万円の黒字を計上 24年度予算、河川状況の悪化拭えぬ不安

通常総代会は、総代総数100名の内、出席総代数80名、(本人出席71名、委任状9名(内代理2名))で、書面議決2名で、下記の議案を審議していただき、全て承認をいただきました。

第1号議案	平成23年度事業報告、財産目録、貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分案承認の件
第2号議案	平成24年度事業計画承認の件
第3号議案	平成24年度賦課金額及び徴収時期方法承認の件
第4号議案	平成24年度特別賦課金額及び徴収時期方法承認の件
第5号議案	平成24年度行使料額及び徴収時期方法承認の件
第6号議案	平成24年度借入金限度額承認の件
第7号議案	平成24年度余裕金預入先承認の件
第8号議案	平成24年度理事及び監事の報酬額承認の件
第9号議案	新谷川釣堀的漁場申請承認の件(継続)
第10号議案	阿賀野川漁業協同組合内共第8号第5種共同漁業権行使規則(一部)変更について承認の件
第11号議案	阿賀野川漁業協同組合内共第8号第5種共同漁業権漁規則(一部)変更について承認の件

【決算の主な内容】

収入では、遊漁券の売上が58万円減、指導事業雑収益(漁業補償金)256万円増、全体では200万円の増でした。

支出では、人件費7万円増、旅費交通費で21万円減、事務費で5万円減、会議費で10万円の減、全体では55万円の増でした。

【24年度新規事業】

サケ有効利用(サーモンフィッシング)の実施。



第五十三回通常総代会開催される 六月二十四日 五泉市福祉会館

平成23年度収支決算額

- ◆収入総額 25,484,404円
- ◆支出総額 24,039,261円
- ◆当期純利益 1,445,143円

平成24年度収支予算総額

前年度対比 4,999千円増

- 【収入総額】 28,482,000円
- ・賦課金 7,098,000円
 - ・特別賦課金 3,698,000円
 - ・受入行使料 144,000円
 - ・受入手数料 270,000円
 - ・受入漁料 4,000,000円
 - ・受入補助金 886,000円
 - ・指導事業雑収益 12,000,000円
 - ・その他 386,000円
- 【支出総額】 28,482,000円
- *繁殖保護費 5,935,000円
 - *人件費 6,147,000円
 - *旅費交通費 1,082,000円
 - *事務費 1,009,000円
 - *業務費 1,009,000円
 - *諸税負担金 20,000円
 - *支払賦課金 540,000円
 - *増殖経費 2,280,000円
 - *施設費 600,000円
 - *減価償却費 100,000円
 - *事業外費用 5,931,000円
(漁業補償金地区返金 5,748千円を含む)
 - *法人税等 800,000円
 - *その他 1,791,000円
 - *予備費 1,238,000円
(新規事業繰出金を含む)

こんな意見が
でました

Q 魚に対する放射能の影響は。放射能検査結果を組合員に周知すべきである。放射能検査結果を魚に放射能の影響については、明確な回答はできないが、今後の経過をみながら対応していきます。放射能検査結果については、随時、組合員にお知らせいたします。

Q サケの卵を出さなくともいいの。義務と権利は。現場採卵は、許可の度にお願ひしていますが、全地区で取り組んでいないのが現状です。増殖を一手採卵にしてしまうと、採卵者の義務感(増殖をすることで許可を貰っている)が薄れてしまうことから現場採卵をお願いしています。

Q 地区単位で割当てをするなどの検討を新役員でさせていただきます。

Q 刺し網に付けるブイの色区分を徹底しているのか。ブイの色区分(さけ：黄、ます：白、外来魚：赤、蟹：青)については、許可の度にお願ひしています。各地先を巡視して確認いたします。

Q 総代会資料の送付時期、一週間前では内容検討が出来ない、定款を変更しては。定款第37条5項では一週間前までに通知することになっていますが定款にこだわらず早め送付いたします。

Q 収入の四〇%を協力が縮めている。経営体質の改善は進んでいるのか。役員報酬のカット、臨時職員での対応など財政改革を行ってまいりました。組合員の減少等もあり、協力金に依存している事も事実ですが新規事業の立ち上げが急務です。

FUJITA・YOKOGOSHI

【土 建 業】

代表 藤田 正明

☎ 950-0208 新潟市江南区横越中央 2-10-8
TEL 025-385-1177

(株)三川土建

土木工事のことならお任せ

阿賀町五十沢1302番地
☎ 0254-99-3584 FAX3822

サーモンフィッシング事業今秋実施へ



荒川にて

サケ有効利用調査委員会は、阿賀野川沿線の漁業組合・自治体等の代表者で構成してあります。

サーモンフィッシング実行委員会は、阿賀野川漁業協同組合の理事全員が委員となっております。

この事業は、サケ有効利用調査委員会が行いますが、細かい準備や現場での(監視・受付・案内・その他)作業は、組合内に「サーモンフィッシング実行委員会」を設置し対応してまいります。

この事業の成否は、漁場を管理する地先の協力が不可欠です。この後、漁場使用について、対象地区組合に対して七月末頃より説明と具体的内容について協議を始めることになっていきます。関係地先の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

二十三年度実施に向けて取組んでいたこの事業は、昨年七月末に発生した福島新潟豪雨による記録的な洪水によってダメージを受けた。河川は秋になっても回復せず事業を断念致しました。

現在最終準備に入っており、大方は昨年の調査委員会で確認しており、実施に向けて、大きな問題はないものと考えております。

今後のスケジュールとしては、今年の総会(六月二十四日)終了後ただちに委員会を開催し、最終確認を行い八月末には許認可申請と合わせて、公募を行い、十一月中旬には実施の運びです。

サケ有効利用調査委員会報告

閑話休題

ミラクルジャパン!

※雑論寄稿/村山 賢二

日本は自信を失っていると言うのが本当だろうか。大震災、巨大津波、更に放射能汚染。確かに危機的状態である。

しかし、世界はどう観ているのだろうか。全世界に占める日本の国土は〇・二%。人口は二%。世界で起きている地震の凡そ三〇%は日本で起きている。この厳しい条件下でも世界一安全な超高速新幹線。スカイツリーは東日本大地震でもビクリとしなかった。又、観測衛星「はやぶさ」はその技術力の高さで世界を驚嘆させたことは記憶に新しい。

小国日本がなぜここまで発展したのか。先般NHKのラジオ番組でサウジアラビアの留学生が答えている。日本は戦争に負け、二度も原子爆弾を落とされ地獄を見た。首都東京は度重なる空襲を受け、焼け野原となり、世界の誰もが日本は終わったと思った。

しかし、日本人は、「ミラクル」を起こした。考えられないスピードで復興し、世界に冠たる近代国家を築いた。

放射能汚染におびえ多くの外国人は日本を脱出したが、母国からの発令は、我々の目指す国づくりには日本が教科書である。君達はそのための留学生なのだ。

日本は又、必ずミラクルを起こす。復興を一緒に成し遂げ、その経験をサウジアラビアの国づくりに生かすため、絶対帰国を認めなかつたと言った。

この信頼と真逆なのが日本の政治である。その貧困は今更であるが、評論家政治では有事に対応できない。

震災と放射能からの復興は並大抵の仕事ではない。しかし日本は二度も三度も奇跡を起こしている。世界は、政治家ではなく、日本人を信じているのだ。

復興に評論家はいらぬ。小さな島国の国民は、懸命に働き、戦後復興、高度成長と、ただひたすらに突き進んだ、あの日本人の一途さが今必要なのではないだろうか。

「大いなるまがの痛みに耐へて生きる人の言葉に心打たる」

天皇陛下が被災地で詠んだ句である。全てに人の心が介在することを肝に命じ、日本人にしか為し得ないことを、世界に示そう。